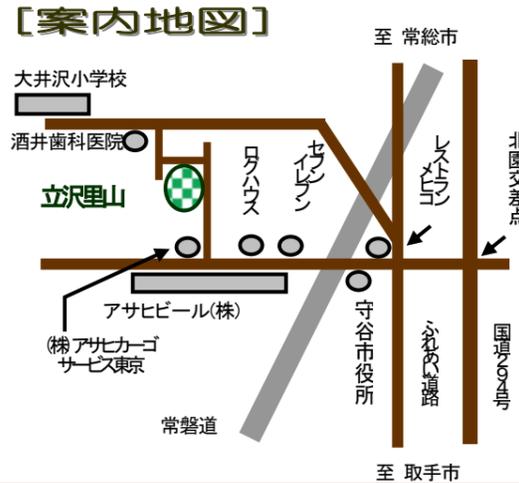


# 立沢里山

平成25年12月15日 里山新聞 第30号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮  
 問い合わせ先：事務担当  
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）  
 立沢里山ホームページ  
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集  
 あなたも一緒に楽しみましょう！



「立沢里山新聞」の記事をお願いします  
[denen21@hb.tpl.jp](mailto:denen21@hb.tpl.jp) 清野

- ～目次～
- 1 北守谷団地、夏祭りに出店
  - 2 「田んぼの学校」の稲刈り、脱穀
  - 3 取水堰の大改修
  - 4 台風26号来襲
  - 5 市民大学里山コース本格化
  - 6 利根のマコモ
  - 7 本紙の終了「もりや里山新聞」へ

今年は里山の小川が大湯水で干上がってしまったため、前日魚とりに行った際に、わずかに残った水溜りに沢山の小魚がひしめいており、メダカのほか、タモロコ、モツゴに、少し大きなオイカワ、水生昆虫のゲンゴロウやマツモムシなども大量に捕獲して展示に加わったので、水槽の生物多様性はかなり向上しました。



そこで二日目は、メダカだけでなく自宅でも簡単に飼うことができるはずなので、希望する子供たちに無料配布することにしました。「本当にいいの？」と皆驚いたような顔でしたが、嬉しそうに意気揚々と持って帰りました。中にはあげるよ！と言ったのに、いくらですかと真剣に聞いてくる子供もいて、時代の変化を感じました。

中にはメダカを飼いたいのに、その場でお母さんの了解がとれず、急遽自宅にいるお父さんを呼びに行き交渉する熱血漢の子供もいて、最近の家庭事情を垣間見ることもできました。父兄には、水槽の水質改善に竹炭が有効と説明すると、さっそく購入していく人もかなりいました。おかげで夕方には100匹くらいいたメダカをほとんど配布してしまいました。しかし今年はメダカがいなくなっても水槽の中は他の様々な魚たちがいて、最後まで賑やかな状況でした。売り上げには結びつきませんが、里山マップの配布もあり、かなり里山の広報活動としては成果があったと思います。そんなことから、今年は店番がやや忙しすぎてビールをゆっくりと飲む暇もありませんでしたが、子供たちを含めて市民に説明交流することの大切を実感しました。

## 2 「田んぼの学校」の稲刈り、脱穀

今年は例年より早く9月9日（月）の稲刈りと決定しました。当日は晴天に恵まれ、御所が丘、松前台、大井沢の3小学校の5年生、約250名が元気に徒歩でやってきました。生徒、主催者挨拶の後、稲刈りの実演と説明を受けてさっそく稲刈り開始です。数日前に雨が降り足場が悪く、移動に苦労しながら様々な方向から刈り取りました。稲刈りと運搬、オダ掛けなどを生徒が交替しながら取り組み、約一時間で作業は完了しました。最後にオダ掛けの周辺で「田んぼの学校旗」と記念撮影し、また徒歩で元気に帰って行きました。



## 1 北守谷団地、夏祭りに出店

今年は猛暑が続きます。8月17日（土）18日（日）と恒例の北守谷団地の夏祭りに出店しました。今年から焼きそば等の仕込み作業のチェックが厳しくなり、公共施設を使用することにしました。17日（土）9時から「いこいの郷」の調理室に集合して作業です。室内は冷房も効いていて、ウルトラ猛暑の今年は助かります。ただ、竹酢液だけは強烈な臭いのため室内での詰め込み作業は不可能なので、急遽駐車場の片隅で実施することにしました。ヤキソバの仕入れ数は例年とほぼ同じ、竹酢液は100本、他に竹炭アートなどを用意しました。初日はテントなどブースの準備をして、午後3時から開幕です。



当日は朝からの猛暑で人の出を心配しましたが、結構日中から人が多く、夕方になるとさらに反動で急激に人が増えてきて、焼きそばは長い行列が続きました。もう一か所焼きそばの店が出店するとのうわさでしたが他にみあたらず、我々だけだったことも混雑を加速させたようです。里山の展示コーナーでは今年初めて「守谷里山マップ」を配布することにしました。水槽での里山の生き物展示は二年目で、日が暮れてくると水槽の照明に大勢の子供たちが集まってくる。例年、竹酢液が売れ残り、販売方法が議論されるのですが、今年は大口需要者が何人も出てきて60本が売れました。後日またほしいという者もいたので、徐々にですが知られてくると売れるようですね。



脱穀作業

稲刈りから一週間もたっていませんが、好天が続いたので乾燥具合も良好のようです。

9月14日(土)に脱穀することになりました。モミすり状態では昨年よりやや収量は少なかったのですが、翌週各学校に配布しました。

今年は例年よりかなり早く脱穀まで終わってしまいましたが、9月16日に台風による暴風雨が来たことから、その前に全ての作業が終了し、絶妙のタイミングだったと安堵しました。



脱穀後の収穫高

3 取水堰の大改修

整備後10年を経過し、取水堰の老朽化が厳しくなっていたことから大改修をすることにしました。

道路対岸の堰上げ施設は撤去し、両岸取水だけでなく堰上げ高さを調整して若干の貯水機能も付加することにしました。

9月の3連休を利用し、廃材を活用して製作、最終の9月24日に現場据え付けを行いました。

今後は堰周辺に、竹炭による水質改善施設、小魚用魚道、子供達のせせらぎ遊び場や手洗い場なども追加整備し、看板とともに親水触れ合いエリアとすることも検討してはと思います。



現地据え付け後

4 台風26号来襲

10月16日(水)の深夜から早朝にかけて、かつてない大型の台風26号が関東地方に接近し、暴風雨により各地で大きな被害が発生しました。

同日早朝に立沢里山の見廻りに行ってきましたが、小川の水位があがり、水田、池なども浸水して谷津田全体が一面の海ようになっており、なかなか迫力のある景観でした。

おそらく里山活動を始めて以来の最大水位だと思います。先月上流の堰上げ施設を全面撤去し取水堰を改修した直後であり、通水断面も十分に拡大したことが幸いだったようです。

稲刈り脱穀も終了していたので、里山としては特別に大きな被害はありませんでした。

改修前の老朽木道とプラスチックパネルの箇所が分解して浮きあがり下流側へ10m近く流されていましたが、週末に応急復旧しました。今年改修した木道は水没せず被害も全くなかったため、残された区間の早期改修とプラスチックパネルの固定方法を検討する必要があります。



台風26号で冠水、小川の水位と水田の高さがほぼ同じ

「農林業が育む里山」生物多様性 講師 清野修



ています。

特に10月19日(土)は、国際交流センターを発着点として、立沢里山周辺の斜面林、湿地などを歩きながら「自然観察会」を行いました。講師は「南さん」でした。いつもの立沢里山ですが、植物を観察しながら歩くと、見慣れたはずの風景も感覚的に違って見えてきます。

参加者はこんな身近な場所に様々な植物がいることに感激し、さわやかな天気にも恵まれて楽しい散策となりました。

12月の立沢里山の定例会(竹林整備)にあわせて、また市民大学の校外学習を予定しており、協働作業など、今後とも立沢里山の会の協力をよろしくお願いします。

5 市民大学里山コース本格化

本年度からスタートした市民大学の「里山コース」は、座学のほか校外学習として6月末ホテル見学(講師今村)、9月に稲刈り(講師清野)、10月には自然観察会(講師南)と続き、いずれも立沢里山の会の会員が講師を務め、市民活動支援センターに近いこともあって、立沢里山周辺を現地研修エリアとして有効に活用させていただ



「自然観察会」講師 南哲郎

6 利根のマコモ

三橋美智也の「女船頭唄」にてでてくる「ざんざら真菰(マコモ)」は昔から利根川周辺に自生する湿地性の植物で、お盆のマコモ飾り、マコモ馬など地域特有の身近で伝統的な素材として生活に密着して活用されてきましたが、最近では知る人もほとんどなくなったようです。

10月の「自然観察会」で通りかかった際に、立沢里山のマコモがちょうど食べ頃だったので、収穫してみました。ネットで調べると調理方法がいくつか紹介されており、最も簡単そうな「さっとゆがいて柚子胡椒」で食べてみましたが、シャキッとした歯ごたえで酒のつまみに最高でした。火が通りやすいので、大切に1分以内で手早く茹でるのがコツです。鍋物やしゃぶしゃぶにも入れてみましたが結構なじみます。現在も大野川など守谷では何処にでも大量に自生しており、こんなに素晴らしい食材が全く忘れられていることはおしいですね。



上は収穫後、下は調理後のマコモ



7 「立沢里山新聞」から「もりや里山新聞」へ

平成18年(2006年)から発行してきた本紙「立沢里山新聞」は、立沢里山の会の活動状況を発信し続けて30号を重ねましたが、本号をもって終了します。御愛読ありがとうございました。

今後は対象範囲を広げ、守谷市全体の里山活動を紹介する「もりや里山新聞」として発展的に継承していきます。当然「立沢里山」についても掲載していきますので、引き続き御協力をお願いします。

2013.12.15(編集担当:清野修)